

| |
|------|
| 作成年度 |
|------|

| |
|-------|
| 令和5年度 |
|-------|

林業・木材産業循環成長対策交付金
達成状況報告

山梨県

1. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

| 目標 | メニュー | 全体指標 | 現状値 | | | 目標値 | | | 目標年度の報告 | | | 備考 |
|-------------|-------------|------------|-----|-------|-----|-----|-------|----|---------|------------|----|---------------------|
| | | | 数値 | 単位 | 年度 | 数値 | 単位 | 年度 | 実績 | 達成率 (%) | 年度 | |
| 望ましい林業構造の確立 | 高性能林業機械等の整備 | 素材生産量(増加率) | 170 | 千m3 | H29 | 325 | 千m3 | R4 | 236 | 72.6 | R4 | 県木材生産量調査 R5.7.31 |
| | | 素材生産性(目標値) | 5.0 | m3/人日 | H29 | 5.9 | m3/人日 | R4 | 7.55 | 128.0 | R4 | 素材生産事例調べ R5.9.30 |

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

| 目標 | 本事業により実施した目標の分析とその評価 | 今後の課題とその解決策 |
|-------------|---|--|
| 望ましい林業構造の確立 | <p>素材生産量が目標325千m³に対して実績236千m³と低調であった。素材生産性が目標5.9m³/人日に対して実績7.55m³/人日と目標を上回った。</p> <p>素材生産量の実績が低調であったことについて、森林資源の充実に對して、担い手や路網整備等が十分な水準に達していないことが影響したと考えられる。</p> <p>素材生産性が目標を上回ったことについて、高性能林業機械の導入により作業性が向上したと考えられる。</p> | <p>担い手の育成や路網整備による素材生産能力の向上が必要と考えられるため、農林大学校等を中心に担い手の確保・育成に努めていく。</p> |

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記述するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記述すること。
- 2 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記入すること。
- 4 行については、適宜加除すること。

1. 事業構想評価

(1)事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

| 目標 | メニュー | 指標 | 開始年度 | 目標年度 | 達成状況 | | | | | | | | | | | | | | | 備考 |
|--------------------|------------------|------------------|---------------------|--------------------------|-----------|-----|------|------|-------|-----|------|-------|------|------|-------|-----|-----|-------|-----|----|
| | | | | | 1年目(開始年度) | | | 2年目 | | | 3年目 | | | 4年目 | | | 5年目 | | | |
| | | | | | 目標値 | 実績値 | 達成率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | |
| 安定供給体制の整備推進 | 間伐材生産 | 間伐材生産経費(円/㎡)の減少率 | | R1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 高性能林業機械等の整備 | 労働生産性(㎡/人・日)の増加率 | | | 11% | -2% | -16% | 12% | 3% | 21% | 13% | 28% | 214% | 14% | | | - | - | - | |
| 木材利用及び木材産業体制等の整備推進 | 木材加工流通施設等の整備 | | 地域材利用量(㎡)の増加率 | | R4 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 木造公共建築物等の整備 | 木造化(補助率1/2以内) | 事業費当たりの木材利用量(㎡/百万円) | R1 | | 2 | 3.8 | 191% | 2 | 3.8 | 191% | 2 | 3.8 | 191% | 2 | | - | - | - | |
| | | 木造化(補助率15%以内) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 木質化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 木質バイオマス利用促進施設の整備 | 未利用間伐材等活用機材整備 | | 事業費当たりの木質バイオマス利用量(㎡/百万円) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 木質バイオマス供給施設整備 | | | | H30 | 20 | 636 | 3181% | 20 | 441 | 2203% | 20 | 461 | 2305% | 20 | 383 | 1915% | 20 | |
| 木質バイオマスエネルギー利用施設整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注)

- 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。
なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

| 目標 | メニュー | 全体指標 | 現状値 | | | 目標値 | | | 目標年度の報告 | | | 備考 |
|--------------------|----------------------|------------------------|------|-----|----|------|-----|----|---------|--------|----|-----------------------|
| | | | 数値 | 単位 | 年度 | 数値 | 単位 | 年度 | 実績 | 達成率(%) | 年度 | |
| 森林資源の保護 | 森林環境保全の推進 | 人為的な森林被害に対する指導・取締件数の割合 | 0.03 | 件/日 | R3 | 0.02 | 件/日 | R4 | 0.023 | 85% | R4 | R5.4.11森林保全管理推進事業実績報告 |
| マーケティング力ある林業担い手の育成 | 人材の確保・育成・定着及び労働安全の確保 | 素材生産量 | 213 | 千m3 | R3 | 225 | 千m3 | R4 | 236 | 105% | R4 | R5.3.31 木材生産量調査 |
| | | 認定事業主数 | 46 | 社 | R3 | 46 | 社 | R4 | 45 | 98% | R4 | R5.3.31 認定事業主数集計 |
| | | 新規就業者数 | 45 | 人 | R3 | 50 | 人 | R4 | 34 | 68% | R4 | R5.3.31 新規就業者の状況調査 |
| | | 労働安全の確保 | 12 | 件/日 | R3 | 11 | 件/日 | R4 | 13 | 85% | R4 | R4.1~12 令和4年労働災害統計 |

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

| 目標 | 本事業により実施した目標の分析とその評価 | 今後の課題とその解決策 |
|--------------------|---|--|
| 森林資源の保護 | 森林保全管理施策の一環として巡視活動を強化し、林野火災や違法行為等の人為的な森林被害防止の点で効果を発揮しているが、新型コロナウイルス感染症等により活動日数の減少等の影響から、目標達成に至らなかった。 | 目標について、概ね達成できたものの、今後、さらに目標達成へ近づけるために、過去、人為的な森林被害があったエリアを絞り込み、効率的なパトロールを実施することで被害を未然に防止する。 |
| マーケティング力ある林業担い手の育成 | 素材生産量については、目標を上回った。 林業経営体に対し改善計画書の策定を指導したが、将来的な廃業等を見据えて、認定事業主の更新を行わない経営体が見られ、目標値を下回った。 新規就業者の確保については、各種就職ガイダンス等を実施し、多くの就業希望者が参加したものの、就業までは至らず目標までは至らなかった。 林業従事者を対象に伐木における安全作業に関する研修会の開催などにより安全意識の向上に取り組んだが、労働災害件数の減少は達成できなかった。 | 経営体の強化が課題となっているため、引き続き、林業経営体に対し改善計画書の策定を継続的に指導し、生産性の向上及び認定事業主数の増加に努めていく。 また、今後は主伐やその後の再生林などの増加が見込まれることから、引き続き技術研修を実施することにより、従事者の能力向上と労働安全の強化に取り組んでいく。 |

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記載するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記載すること。
- 2 報告年度については、要領第6の2に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記載すること。
- 4 行については、適宜加除すること。